

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会
第14回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ
問題・課題総合評価シート及び「耳川通信簿」

目 次

○問題・課題評価シート【山地領域】	1
○問題・課題評価シート【ダム領域】	2
○問題・課題評価シート【河道領域】	3
○問題・課題評価シート【河口・海岸領域】	4
○「耳川通信簿」耳川流域全体（令和7年度）	7

令和8年3月16日

問題・課題評価シート【山地領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価					
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2	
						方向性	状態			方向性	状態		
山地領域	(1)崩壊地からの土砂流出状況	11.裸地面積	3	主	至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	B	b	△	【山地領域目標】 森林保全や治山・砂防の推進により、土砂・流木の流出制御を目指す。				
		12.ダム堆砂	5	主	至近3年間の変動幅の範囲内を下回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	A	b						
		5.河道縦横断	7	主	状態は基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	-	b						
		25.土砂除去量(河道・河口海岸)	14	主	状態は基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	-	b						
		30.ヒアリング	15		森林管理者へのヒアリングの結果、総合的に「悪化傾向」及び「悪い状態」と評価される。	C	c						
	(2)土石流等の土砂災害の発生状況	14.土石流危険渓流整備(土砂災害発生状況)	18		土砂災害発生件数が至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	B	b	△					
		15.保安施設整備(土砂災害発生状況)	18										
	(3)自然景観	17.写真観測(自然景観)	21		大規模崩壊跡地の方向性は、至近3年間の変動幅を下回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、森林管理者へのヒアリングの結果、「悪い状態」と評価される。	A	c	△		【評価コメント】 令和7年度は、ヒアリング(崩壊地からの土砂流出、産業基盤の状況)、写真観測(砂防施設)に関して「悪化傾向」、また、ヒアリング(崩壊地からの土砂流出、自然景観、生物生息環境の変化、漂着物量(河道・河口海岸)、産業基盤の状況)、写真観測(砂防施設)に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、山地領域は総合的に「△」と評価される。			
		17.写真観測(親水景観)	21		前年度と比較して、大きな変化はみられないことから「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートの全体の平均は2.8点となり、総合的に「良い状態」と評価される。	B	a						
		30.ヒアリング	28		ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-						
	(4)生物生息生育環境の変化	30.ヒアリング	31		生物生息生育環境の方向性は、全ての森林管理者から「維持傾向」の回答を得たことから、「維持傾向」と評価される。状態は、一部の森林管理者から「悪い状態」と回答を得たことから、「悪い状態」と評価される。	B	c	×					
	(5)産業基盤の状況	11.裸地面積	34		至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	B	b	△					
		27.流木処理実績	35		(参考:令和6年度評価) 状態は、基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	-	a						
		26.漂着物量(河道・河口海岸)	36		至近3年間の変動幅を下回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングの結果、「悪い状態」と評価される。	A	c						
16.路網密度		37		(参考:令和6年度評価) 路網密度の方向性は、至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。『第八次宮崎県森林・林業長期計画』令和7年目標値(39.7m/ha)を上回っていることから「良い状態」と評価される。	B	a							
30.ヒアリング		38		山林及び作業道の管理について、森林管理者へのヒアリングの結果、総合的に「悪化傾向」及び「悪い状態」と評価される。	C	c							
(6)湯水緩和機能の状況	13.流況	41		至近3年間と比較して「維持傾向」と評価される。状態は基準年と比較して同程度であることから、「普通状態」と評価される。	B	b	△						
(7)洪水緩和機能の状況	13.流況	41		至近3年間と比較して「維持傾向」と評価される。状態は基準年と比較して同程度であることから、「普通状態」と評価される。	B	b	△						
(8)砂防施設容量	23.写真観測(砂防施設)	50		前年度と比較すると、内の八重川で余裕率が減少していることから「悪化傾向」と評価される。状態は、内の八重川において、水通し天端の上まで堆積していることから「悪い状態」と評価される。	C	c	×						

着色凡例

	: 治水面(防災面)
	: 利水面(水利用面)
	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】A: 改善傾向, B: 維持傾向, C: 悪化傾向

【状態】a: 良い状態, b: 普通状態, c: 悪い状態

評価凡例

○: 問題なく良いレベル

△: 普通のレベル

×: 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【ダム領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価					
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2	
						方向性	状態			方向性	状態		
ダム領域	(9)貯水池末端部(貯水池への河川流入部)治水安全度	12.ダム堆砂	2		7ダムの貯水池末端部の治水安全度に関する総合評価の結果、方向性は「維持傾向」、状態は「普通状態」と評価される。	B	b	△					
	(10)利水容量	12.ダム堆砂	13		7ダムの利水容量に関する総合評価の結果、方向性は「維持傾向」、状態は「普通状態」と評価される。	B	b	△					
	(11)取水機能の維持	12.ダム堆砂	20		7ダムの取水機能の維持に関する総合評価の結果、方向性は「維持傾向」、状態は「良い状態」と評価される。	B	a	○					
	(12)放流設備機能の維持	27.流木処理実績	26		(参考:令和6年度評価) 基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	-	a	○	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 令和7年度は、漁獲量(内水面)に関して「悪化傾向」、また、ヒアリング(漁獲量(内水面)、河床材料)、魚類に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、ダム領域は総合的に「△」と評価される。				
		19.写真観測(ダム流木到達状況)	28		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-						
	(13)利水設備機能の維持	27.流木処理実績	26		(参考:令和6年度評価) 基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	-	a	○					
		19.写真観測(ダム流木到達状況)	28		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-						
	(14)生物生息生育環境の変化	1.水質	33		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	×					
		6.魚類	40		全体の種数・個体数に大きな変化がみられないことから「維持傾向」と評価される。魚類の状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「悪い状態」と評価される。	B	c						
		7.底生動物	—		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-						
		8.附着藻類	—		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-						
		30.ヒアリング	43		ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-						
		6.漁獲量(内水面)	44		(参考:令和6年度評価) 漁獲量の方向性は、至近3年間と比較すると「悪化傾向」と評価される。漁協ヒアリングの結果、総合的に「悪い状態」と評価される。	C	c						
	(15)生物生息空間の連続性	2.河床材料	47		河床材料の粒度分布は、大きな変化が見られないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	B	c	×					
		6.魚類	49		全体の種数・個体数に大きな変化がみられないことから「維持傾向」と評価される。魚類の状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「悪い状態」と評価される。	B	c						
7.底生動物		—		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-							

着色凡例

	: 治水面 (防災面)
	: 利水面 (水利用面)
	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A : 改善傾向, B : 維持傾向, C : 悪化傾向
 【状態】 a : 良い状態, b : 普通状態, c : 悪い状態

評価凡例

○ : 問題なく良いレベル
 △ : 普通のレベル
 × : 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
 ※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【河道領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価						
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2		
						方向性	状態			方向性	状態			
河道領域	(16)付着藻類の変化	8.付着藻類	2		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	-						
		30.ヒアリング	5		ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-							
	(17)河川景観の変化	17.写真観測(自然景観)	7		自然景観は前年度と比較して、特に大きな変化はみられないことから「維持傾向」と評価される。河川特性評価シートによると、「普通状態」と評価される。	B	b	△						
		17.写真観測(親水景観)	7		親水景観は前年度と比較して、特に大きな変化はみられないことから「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートにより状態評価を行った結果、全体の平均は2.7点となり総合的に「良い状態」と評価される。	B	a							
	(18)生物生息生育環境の変化	1.水質	40		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	△						
		2.河床材料	47		河床材料は、各河川区間ともに大きな変化はみられないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。河床材料の状態は、漁協ヒアリングにおいて、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	B	c							
		4.河道形状	49		瀬・淵の数は、至近3年間(令和4年度～令和6年度)の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。基準値(平成19年度～令和3年度の瀬と淵の合計箇所数の平均値)の範囲内であることから「普通状態」と評価される。	B	b							
		6.魚類	53		アユやカマツカの個体数については、地点によって違いはあるものの至近3年間(令和4年度～令和6年度)の変動幅の範囲内の地点が多いこと、アユの産卵床も至近3年間(令和4年度～令和6年度)の変動幅の範囲内であることから、総合的に「維持傾向」と評価される。状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「悪い状態」と評価される。	B	c							
		7.底生動物	60		(参考:冬季データ 令和6年度評価) 地点により、種数及び個体数の変動や造網型指数の増加傾向が確認されたものの、全体でみると至近3年間と概ね同程度であることから、総合的に「維持傾向」と評価される。	B	-							
		8.付着藻類	62		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-							
		9.河岸植生	63		(参考:令和5年度評価) ツルコン群落が大きく減少し、自然裸地が増加していることから「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	C	c							
		29.水質、底生動物	65		(参考:令和5年度評価) 方向性は、至近3年間(令和2年度～令和4年度)の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、平均点が3.83点であることから「良い状態」と評価される。	B	a							
		30.ヒアリング	67		ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-							
		6.漁獲量(内水面)	68		(参考:令和6年度評価) 方向性は、至近3年間(令和3年度～令和5年度)と比較すると「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	C	c							
	(19)瀬・淵の状況	4.河道形状	71		瀬・淵の数は、至近3年間(令和4年度～令和6年度)の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。基準値(平成19年度～令和3年度の瀬と淵の合計箇所数の平均値)の範囲内であることから「普通状態」と評価される。	B	b	△						
	(20)橋脚の安定性	5.河道縦横断	73		状態は、橋脚部が洗濯されている東郷橋及び八重原橋では洗濯対策が講じられており、安全性に関して大きな問題はないと考えられることから「普通状態」と評価される。	-	b	△						
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	73		橋脚基礎の状況に大きな変化は見らず、安全性に関して大きな問題はない。	-	-							
	(21)護岸基礎部の安定性	5.河道縦横断	78		横断測量及び写真の結果、護岸基礎部の安定性は確保されていることから「普通状態」と評価される。	-	b	△						
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	78		護岸基礎部の状況に大きな変化は見らず、護岸基礎部の安定性は確保されている。	-	-							
	(22)取水の安定性	1.水質	84		水道原水のpHの方向性は至近3年間(令和4年度～令和6年度)の変動幅を超えるが、基準値の範囲内に収まっているため「維持傾向」、濁度の方向性は至近3年間の変動幅を下回ることから「改善方向」と評価され、総合的に「維持傾向」と評価される。状態は、設定した基準値の範囲内であることから「良い状態」と評価される。濁度の状態についても、設定した基準値を下回ることから「良い状態」と評価される。	B	a	△						
		5.河道縦横断	85	主	工業用取水口は安定して取水が行われており、富島幹線用水路についてもポンプアップを行わずとも安定した取水が維持されているため、「普通状態」と評価される。	-	b							
		24.写真観測(取水口堆砂状況)	85		取水口付近の状況に大きな変化は見られない。	-	-							
	(23)治水安全度	5.河道縦横断	88		河積変化率の平均は96%で「普通状態」と評価される。	-	b	△						
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	95		河川、構造物基礎等の状況は、令和6年度と比較して大きな変化は見られない。	-	-							
(24)氾濫発生時の被害状況	31.水害統計資料	112		浸水被害戸数を至近3年間と比較すると「維持傾向」と評価される。状態は令和7年度は、浸水被害発生のある流量(過去に浸水被害が発生した平成19年度日最大流入量)を上回る流入量がなく、特に浸水被害は発生しなかったことから「普通状態」と評価される。	B	b	△							
	20.写真観測(洪水時流下状況)	113		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-								

【河道領域目標】
適切な河川管理により、安全安心と生物多様性を実現し、人と川が親しめるよう、川の機能の再生を目指す。

河道領域評価:『△』

【評価コメント】
令和7年度は、河岸植生、漁獲量(内水面)、水質で「悪化傾向」、魚類、ヒアリング(河床材料、河岸植生、漁獲量(内水面))で「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河道領域は総合的に「△」と評価される。

着色凡例

黄色	: 治水面(防災面)
水色	: 利水面(水利用面)
緑色	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】A:改善傾向, B:維持傾向, C:悪化傾向
【状態】a:良い状態, b:普通状態, c:悪い状態

評価凡例

○:問題なく良いレベル
△:普通のレベル
×:問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【河口・海岸領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価 方向性	状態	総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1 方向性	状態	評価※2
河口・海岸領域	(25) 生物生息生育環境の変化	1. 水質 (海域: 出水時)	3		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	△	【河口・海岸領域目標】 水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。 河口・海岸領域評価:『△』 【評価コメント】 令和7年度は、ヒアリング(船舶の航行(操業上)の安全確保、漁業の操業環境)に関して「悪化傾向」、また、河道縦横断、ヒアリング(漁獲量(内水面)、漂着物量(河道・河口海岸)、船舶の航行(操業上)の安全確保、漁業の操業環境)に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河口・海岸領域は総合的に「△」と評価される。			
		3. 底質 (海域: 出水時)	7		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-					
		6. 漁獲量 (海域)	9		至近3年間の変動幅の範囲を上回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「普通状態」の回答を得た。	A	b					
		6. 漁獲量 (内水面)	9		(参考:方向性は令和6年度評価) 至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、一部の漁協から「悪い状態」の回答を得た。	B	c					
		7. 底生動物 (海域: 出水時)	11		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-					
		10. 藻場 (海域)	13		至近3年間で比較して、クロメ場の密生部分と分布範囲は維持されている。また、ヤツタモク場は至近3年間で比較して密生範囲が拡大し、分布範囲は維持されていることから、「維持傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「普通状態」の回答を得た。	B	b					
	(26) 防災機能の維持	28. 航空写真 (汀線比較)	21		(参考:令和2年度評価) 至近3年間ならびに基準年と比較すると増加していることから「改善傾向」及び「良い状態」と評価される。	A	a	○				
	(27) 親水空間の確保	17. 写真観測 (景観・親水)	23		令和6年度と比較して大きな変化は見られない。	-	-	○				
		28. 航空写真 (汀線比較)	25		(参考:令和2年度評価) 至近3年間ならびに基準年と比較すると増加していることから、「改善傾向」及び「良い状態」と評価される。	A	a					
	(28) 港湾施設の機能維持	25. 土砂除去量 (河道・河口海岸)	28		状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	-	b	△				
	(29) 治水安全度	5. 河道縦横断	31		基準年と比較すると、「良い状態」と評価される。	-	a	○				
	(30) 船舶の航行(操業上)の安全確保	5. 河道縦横断	36		確保率は84%であり、100%確保されていないことから「悪い状態」と評価される。	-	c	×				
		25. 土砂除去量 (河道・河口海岸)	37		状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	-	b					
		20. 写真観測 (洪水時流下状況)	38		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-					
		21. 写真観測 (海域漂流状況)	39		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-					
		22. 写真観測 (海岸漂着状況)	39		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-					
		26. 漂着物量 (河道・河口海岸)	40		至近3年間の変動幅の範囲を下回っているため「改善傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「悪い状態」の回答を得た。	A	c					
	30. ヒアリング	41		漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「悪化傾向」及び「悪い状態」の回答であった。	C	c						
	(31) 海岸環境の変化	22. 写真観測 (海岸漂着状況)	44		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	△				
		26. 漂着物量 (河道・河口海岸)	45		至近3年間の変動幅の範囲を下回っているため「改善傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「悪い状態」の回答を得た。	A	c					
(32) 漁業の操業環境	26. 漂着物量 (河道・河口海岸)	48		至近3年間の変動幅の範囲を下回っているため「改善傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「悪い状態」の回答を得た。	A	c	×					
	22. 写真観測 (海岸漂着状況)	49		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-						
	20. 写真観測 (洪水時流下状況)	50		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-						
	6. 漁獲量 (海域)	51		至近3年間の変動幅の範囲を上回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「普通状態」の回答を得た。	A	b						
	30. ヒアリング	52		漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「悪化傾向」及び「悪い状態」の回答を得た。	C	c						
(33) 氾濫発生時の被害状況	31. 水害統計資料	54		浸水被害戸数を至近3年間と比較すると「維持傾向」と評価される。状態は令和7年度は、浸水被害発生可能性がある流量(過去に浸水被害が発生した平成19年度日最大流入量)を上回る流入量がなく、特に浸水被害は発生しなかったことから「普通状態」と評価される。	B	b	△					
	20. 写真観測 (洪水時流下状況)	55		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-						

着色凡例

	: 治水面 (防災面)
	: 利水面 (水利用面)
	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A : 改善傾向, B : 維持傾向, C : 悪化傾向
 【状態】 a : 良い状態, b : 普通状態, c : 悪い状態

評価凡例

○ : 問題なく良いレベル
 △ : 普通のレベル
 × : 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
 ※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

「耳川通信簿」 耳川流域全体（令和7年度）

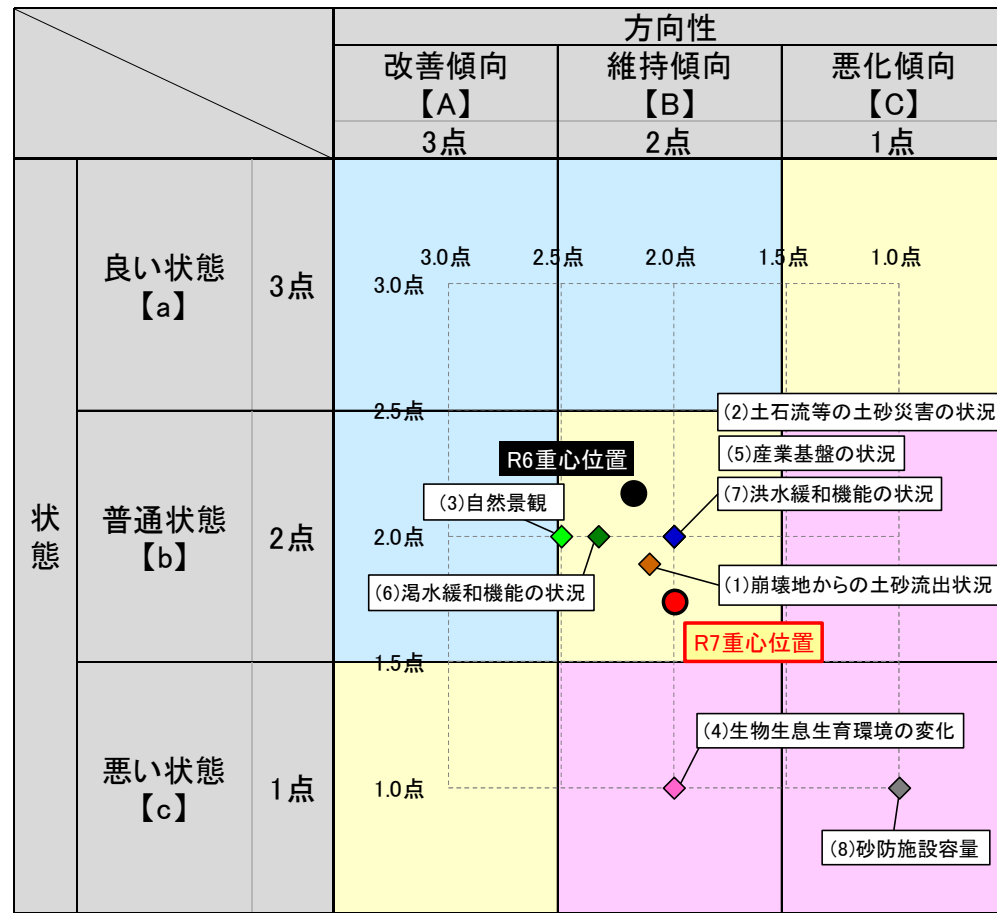
資料	領域	総合土砂管理上の問題・課題	R7		R6		R5		事務局評価	領域の評価				評価改善委員会の評価
			評価	得点	評価	得点	評価	得点						
資料④-1	山地領域	(1)崩壊地からの土砂流出状況	△	1	△	1	△	1	【山地領域目標】 森林保全や治山・砂防の推進により、土砂・流木の流出制御を目指す。 【評価コメント】 山地領域の得点率は38%であり、得点率の評価から令和7年度は総合的に「悪いレベル×」と評価される。令和5年度及び令和6年度を下回る得点率である。 総合土砂管理上の問題・課題では、(4)生物生息生育環境の変化、(8)砂防施設容量の評価が「悪いレベル×」であることから、今後も改善に向けて重点的な取り組みが必要と考えられる。	山地領域	R7	R6	R5	○ △ ×
		(2)土石流等の土砂災害の発生状況	△	1	○	2	○	2		問題・課題の数	8	8	8	
		(3)自然景観	△	1	△	1	△	1		配点	16	16	16	
		(4)生物生息生育環境の変化	×	0	×	0	×	0		得点	6	10	8	
		(5)産業基盤の状況	△	1	△	1	△	1		得点率	38%	63%	50%	
		(6)渇水緩和機能の状況	△	1	○	2	△	1		得点率の評価	×	○	△	
		(7)洪水緩和機能の状況	△	1	○	2	△	1						
		(8)砂防施設容量	×	0	△	1	△	1						
資料④-2	ダム領域	(9)貯水池末端部治水安全度	△	1	×	0	×	0	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 ダム領域の得点率は57%であり、得点率の評価から令和7年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和5年度、令和6年度を上回る得点率である。 総合土砂管理上の問題・課題では、(14)生物生息生育環境の変化、(15)生物生息空間の連続性の評価が「悪いレベル×」であることから、今後も改善に向けて重点的な取り組みが必要と考えられる。	ダム領域	R7	R6	R5	○ △ ×
		(10)利水容量	△	1	×	0	×	0		問題・課題の数	7	7	7	
		(11)取水機能の維持	○	2	○	2	○	2		配点	14	14	14	
		(12)放流設備機能の維持	○	2	○	2	○	2		得点	8	6	6	
		(13)利水設備機能の維持	○	2	○	2	○	2		得点率	57%	43%	43%	
		(14)生物生息生育環境の変化	×	0	×	0	×	0		得点率の評価	△	△	△	
		(15)生物生息空間の連続性	×	0	×	0	×	0						
資料④-3	河道領域	(16)付着藻類の変化	—	—	×	0	×	0	【河道領域目標】 適切な河川管理により、安全安心と生物多様性を実現し、人と川が親しめるよう、川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 河道領域の得点率は50%であり、得点率の評価から令和7年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和6年度を上回る得点率であり、令和5年度と同じ得点率である。 総合土砂管理上の問題・課題では、全ての項目で「悪いレベル×」が解消され、「普通レベル△」へと改善したことから、今後も更なる改善に向けて取り組みを進めていく必要がある。	河道領域	R7	R6	R5	○ △ ×
		(17)河川景観の変化	△	1	△	1	△	1		問題・課題の数	8	9	9	
		(18)生物生息生育環境の変化	△	1	△	1	×	0		配点	16	18	18	
		(19)瀬・淵の状況	△	1	△	1	○	2		得点	8	8	9	
		(20)橋脚の安定性	△	1	△	1	△	1		得点率	50%	44%	50%	
		(21)護岸基礎部の安定性	△	1	△	1	△	1		得点率の評価	△	△	△	
		(22)取水の安定性	△	1	△	1	△	1						
		(23)治水安全度	△	1	△	1	△	1						
(24)氾濫発生時の被害状況	△	1	△	1	○	2								
資料④-4	河口・海岸領域	(25)生物生息生育環境の変化	△	1	△	1	△	1	【河口・海岸領域目標】 水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。 【評価コメント】 河道領域の得点率は56%であり、得点率の評価から令和6年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和5年度を上回る得点率であるが、令和6年度を下回る得点率である。 総合土砂管理上の問題・課題では、(30)船舶の航行(操業上)の安全確保、(32)漁業の操業環境が「悪いレベル×」であることから、今後も改善に向けて重点的な取り組みが必要と考えられる。	河口・海岸領域	R7	R6	R5	○ △ ×
		(26)防災機能の維持	○	2	○	2	○	2		問題・課題の数	9	9	9	
		(27)親水空間の確保	○	2	○	2	○	2		配点	18	18	18	
		(28)港湾施設の機能維持	△	1	○	2	×	0		得点	10	11	9	
		(29)治水安全度	○	2	○	2	○	2		得点率	56%	61%	50%	
		(30)船舶の航行(操業上)の安全確保	×	0	×	0	×	0		得点率の評価	△	○	△	
		(31)海岸環境の変化	△	1	×	0	×	0						
		(32)漁業の操業環境	×	0	×	0	×	0						
		(33)氾濫発生時の被害状況	△	1	○	2	○	2						
		【耳川水系目標】 耳川をいい川にする 【評価コメント】 令和7年度の耳川水系は、山地領域で「悪いレベル×」の評価となったものの、水系全体では令和6年度に次ぐ得点率であり、総合評価は「普通レベル△」の評価となった。 一方で、今年度は出水が殆どなかったが、近年は上流域や支川から大量の土砂が流入しており、関係機関へのヒアリングでは生物の生息生育環境等が悪い、との回答が多い状況が継続している。 今後は、本計画の目標である”森林とダムと川と海のつながり”をより強く意識し、ワーキングにおいては、他領域の課題も共有した上で各領域ごとの評価を行うなど、モニタリング・評価の項目、手法等の見直しについて、行動計画の見直しも含め検討していく必要がある。	耳川水系	R7	R6	R5	○ △ ×							
			問題・課題の数	32	33	33								
			配点	64	66	66								
			得点	32	35	32								
			得点率	50%	53%	48%								
			得点率の評価	△	△	△								

着色凡例

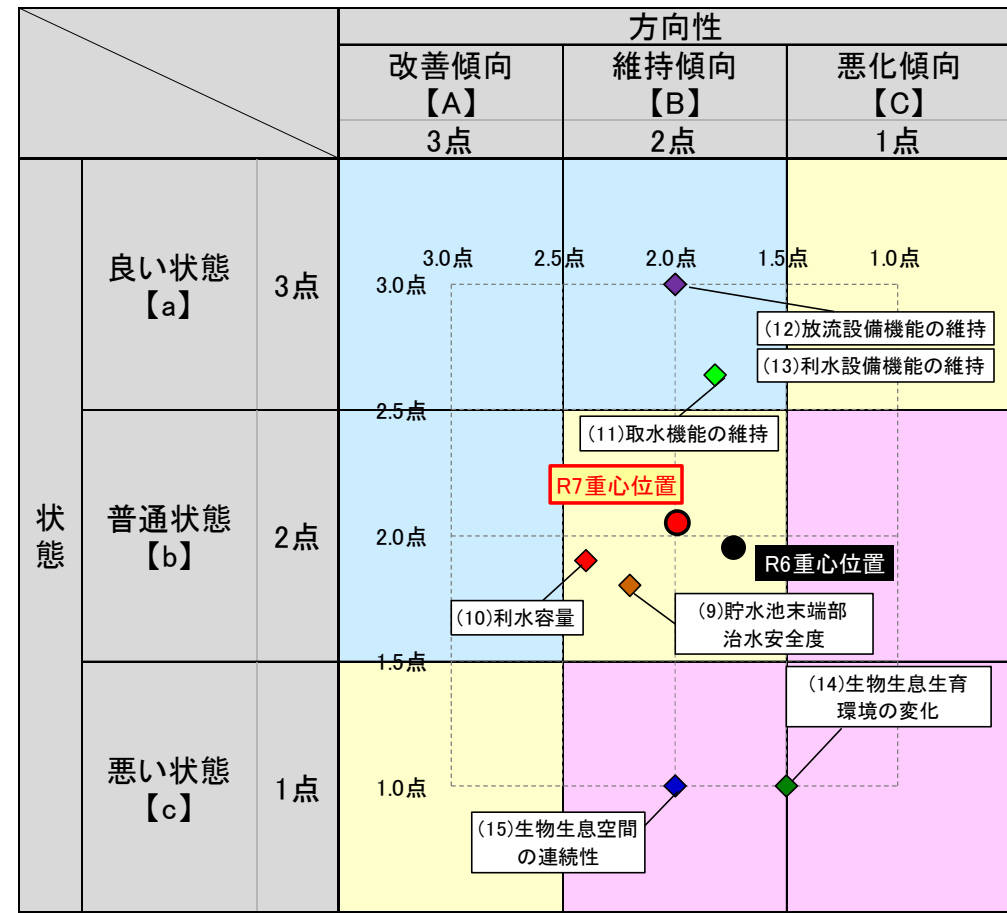
	: 治水面（防災面）
	: 利水面（水利用面）
	: 環境面

課題評価の凡例	
○	問題なく良いレベル
△	普通のレベル
×	問題があり悪いレベル

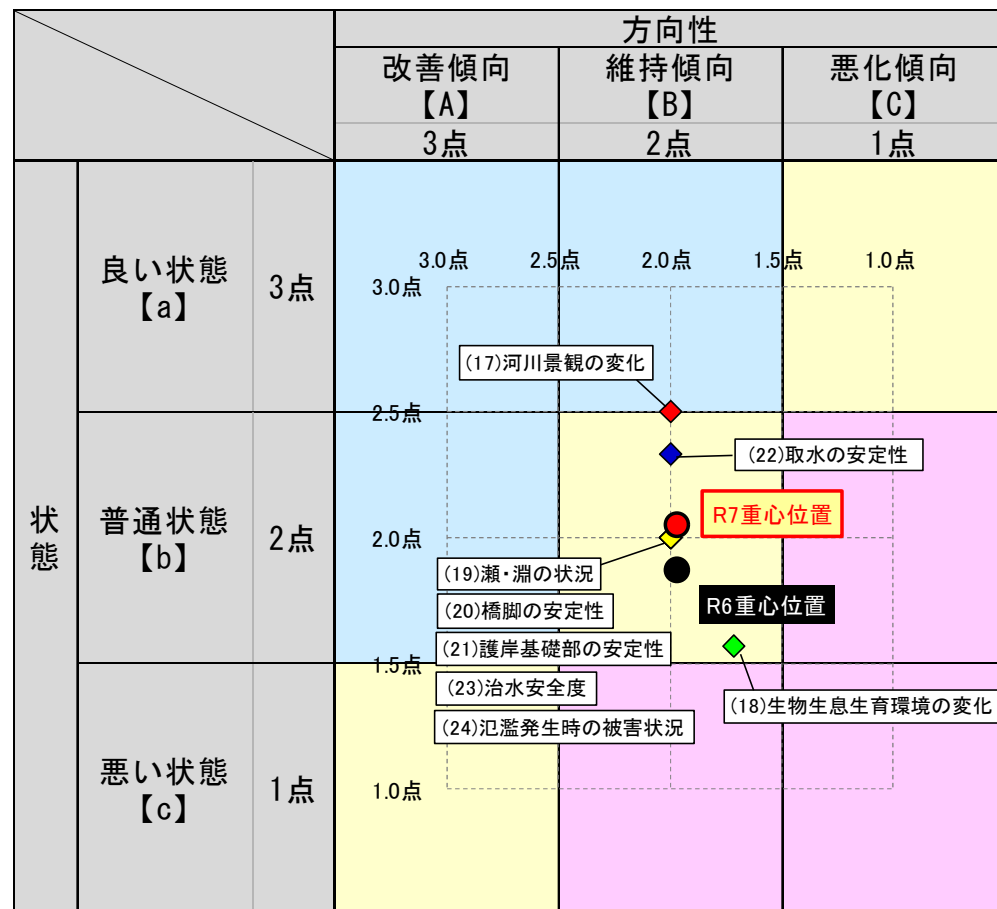
山地領域の総合評価（令和7年度）



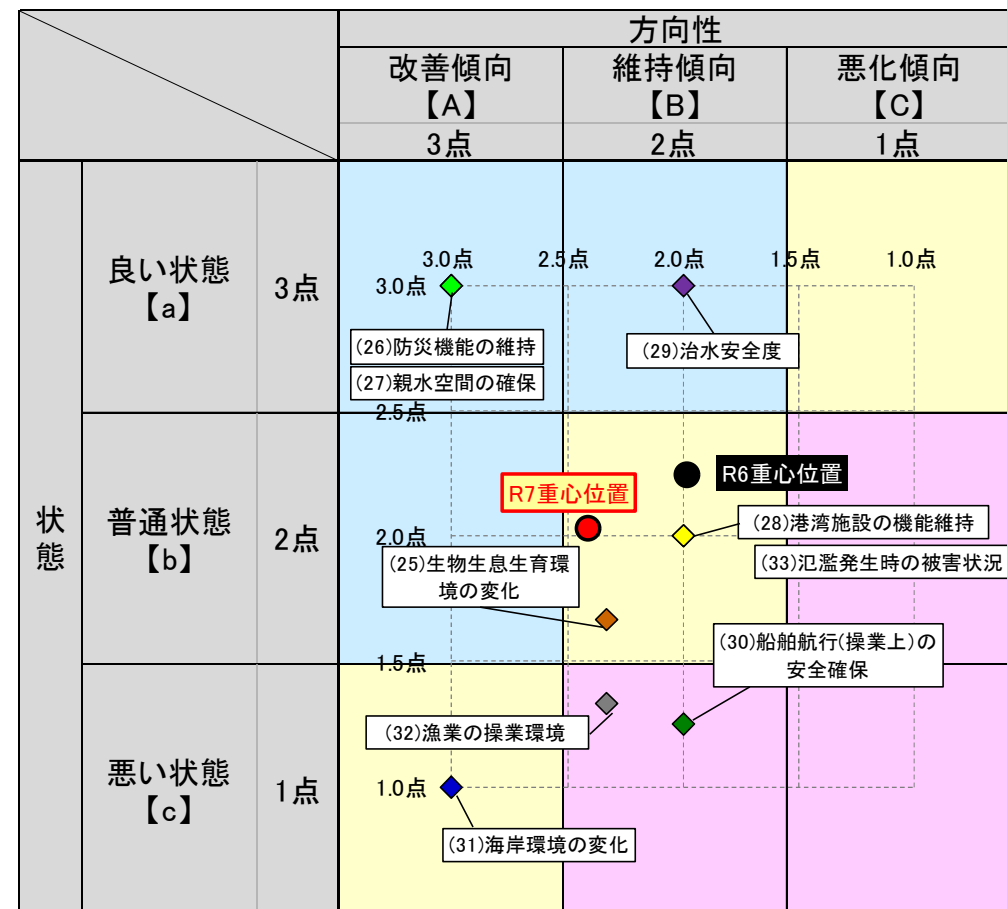
ダム領域の総合評価（令和7年度）



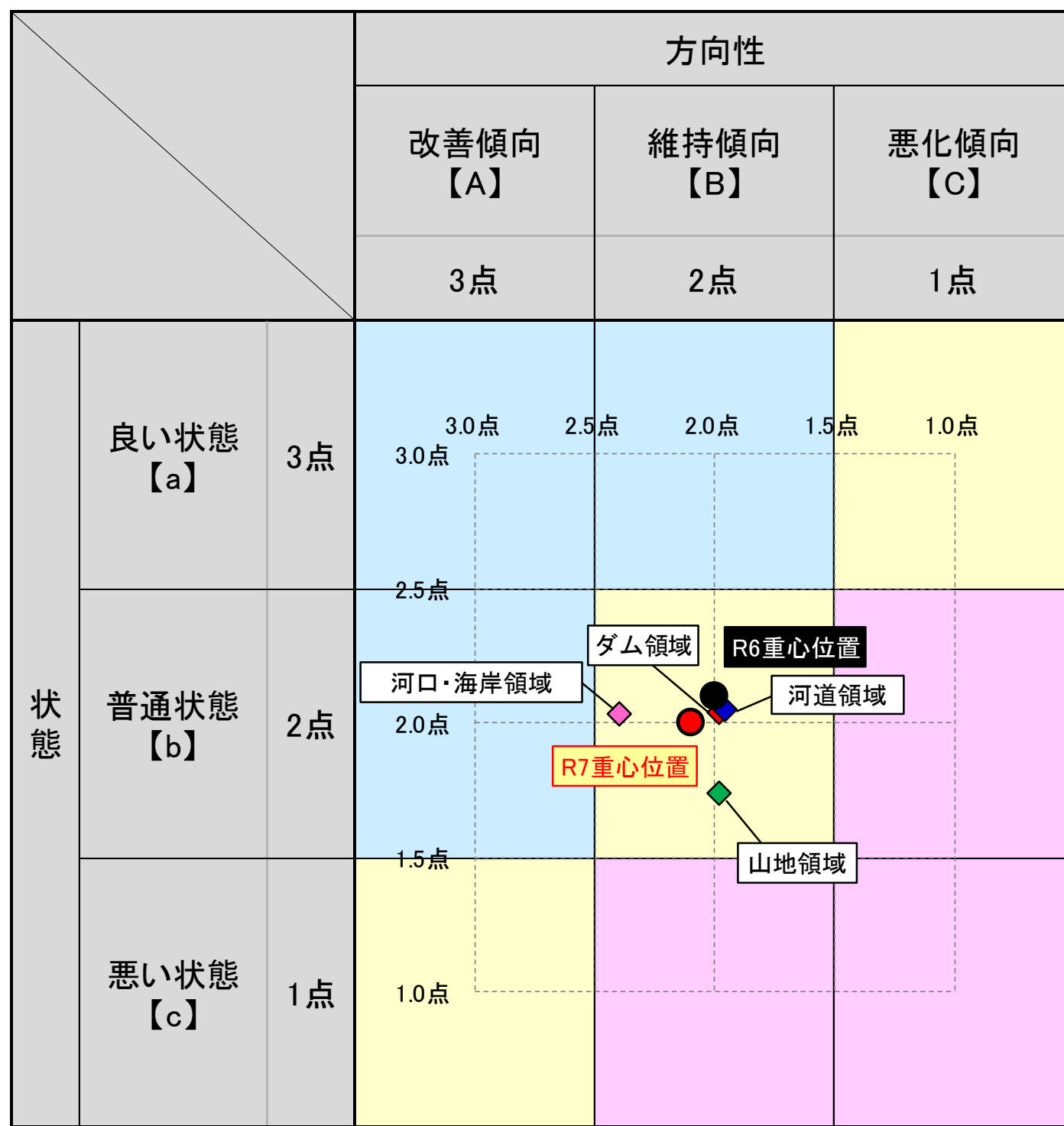
河道領域の総合評価（令和7年度）



河口・海岸領域の総合評価（令和7年度）



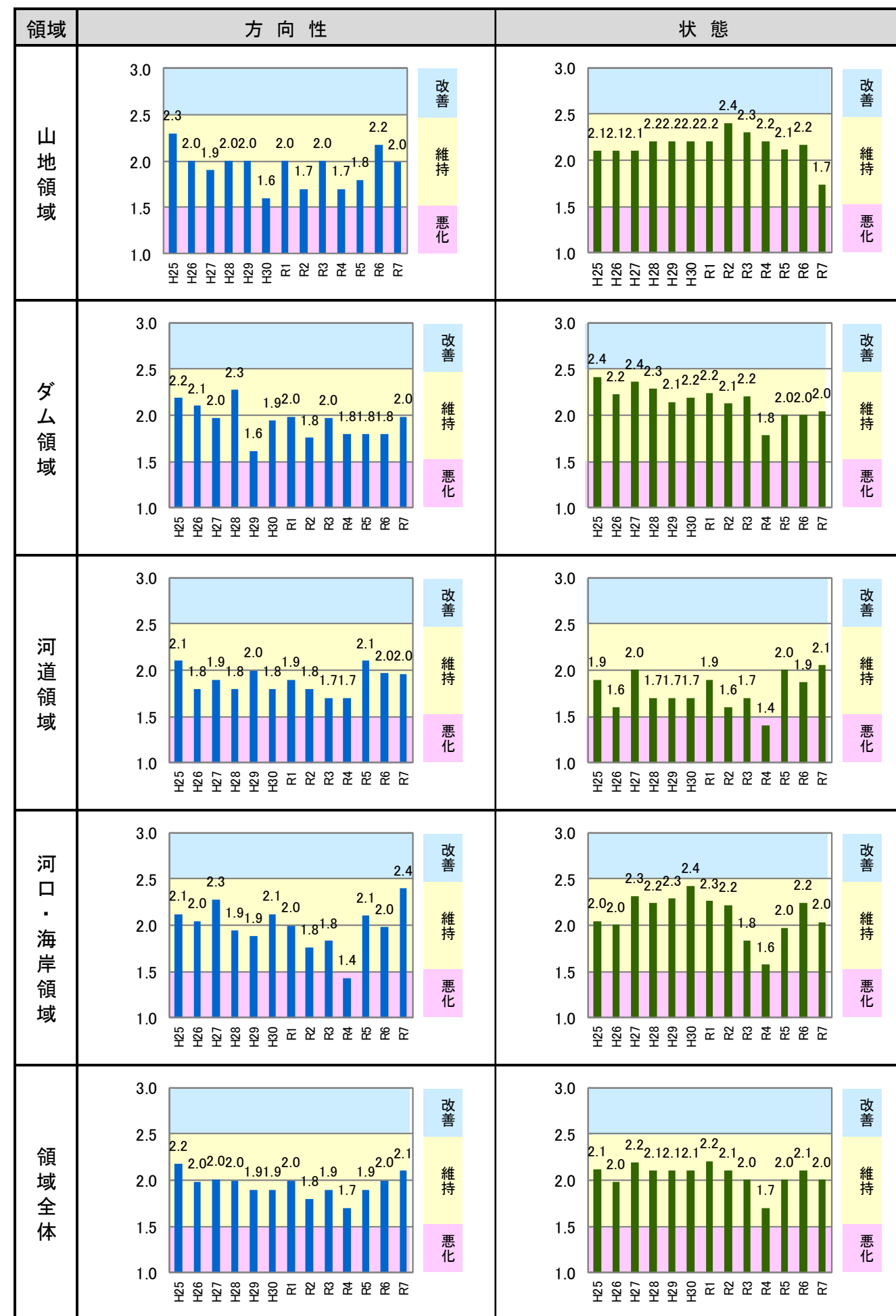
耳川流域全体の総合評価（令和7年度）



凡例

: 良いレベル【O】、
 : 普通レベル【△】、
 : 悪いレベル【×】

注1) グラフは領域ごとの評価結果をプロットしている。
 注2) 重心位置は、これらの評価結果の総合的な位置付けを示したものである。



注) 評価手法を改良しているモニタリング項目があるため、正確に経年変化を捉えていないケースがある。